

## 2009年版と2010年版の評価結果の主な違い

一般に、確率論的地震動予測地図の更新の際には、旧地図の作成から時間が経過したことや、新たな長期評価や地図作成手法の改良の影響等が結果に反映されます。今回の評価では、海溝型地震については、主に前回の地震からの経過年数が更に1年間進んだために次回の地震の発生確率が上昇したことが結果に反映され、海溝型地震の影響が大きい地域で確率が上昇しています。一方、活断層の地震については、その発生間隔が海溝型地震と比較して相対的に長いため、経過年数が更に1年間進んだことによる影響は少なく、主に新たな長期評価結果により地震の発生確率が変わったことが結果に反映されています。

確率論的地震動予測地図のうち、今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（平均ケース・全地震）の評価結果を例に挙げ、2009年版からの確率の変化（2010年版の値から2009年版の値を引いたもの）を次々頁に示しました。この期間、国内では特に大きな地震は発生しておらず、長期評価手法や地震動予測地図作成手法にも変更がなかったため、評価結果に生じた変化は軽微なものにとどまっています。その変化がやや目立つ地域を図中に例示し、各地域で確率が変化した主な原因を以下に列挙します。

- ・ 関東地方南部から四国地方にかけての太平洋沿岸に見られる確率の上昇は、主に算定基準日を2009年1月1日から2010年1月1日に更新したために南海トラフの海溝型地震の発生確率が高くなったことによるものです。
- ・ 北海道東部（図中 a）や青森県東部（図中 b）に見られる確率の上昇は、主に算定基準日を2009年1月1日から2010年1月1日に更新したために千島海溝沿いや三陸沖北部の海溝型地震の発生確率が高くなったことによるものです。
- ・ 新潟県沿岸部（図中 c）に見られる確率の下降は、主にこの地域の震源断層を予め特定しにくい地震の最大規模を M7.2 から M6.9 へ見直したことによるものです。
- ・ 新潟県中越地方（図中 d）に見られる確率の下降は、主に六日町断層帯が主要活断層帯として評価されたために六日町断層帯南部の地震発生確率がこれまでよりも低く評価されたことによるものです。
- ・ 新潟県上越地方から長野県北部（図中 e）にかけて見られる確率の上昇及び下降は、主に高田平野断層帯が主要活断層帯として評価されたことによるものです。高田平野東縁断層帯では想定される地震の規模が大きくなったため、大きな揺れに見舞われる確率が上昇しています。一方、高田平野西縁断層帯では、地震発生確率がこれまでよりも低く評価されたことにより確率が下降しています。
- ・ 福井県北部（図中 f）に見られる確率の下降は、主に福井平野東縁断層帯の評価が改訂されたために地震発生確率が下降したことによるものです。
- ・ 琵琶湖周辺（図中 g）に見られる確率の下降は、主に琵琶湖西岸断層帯の評価が改訂

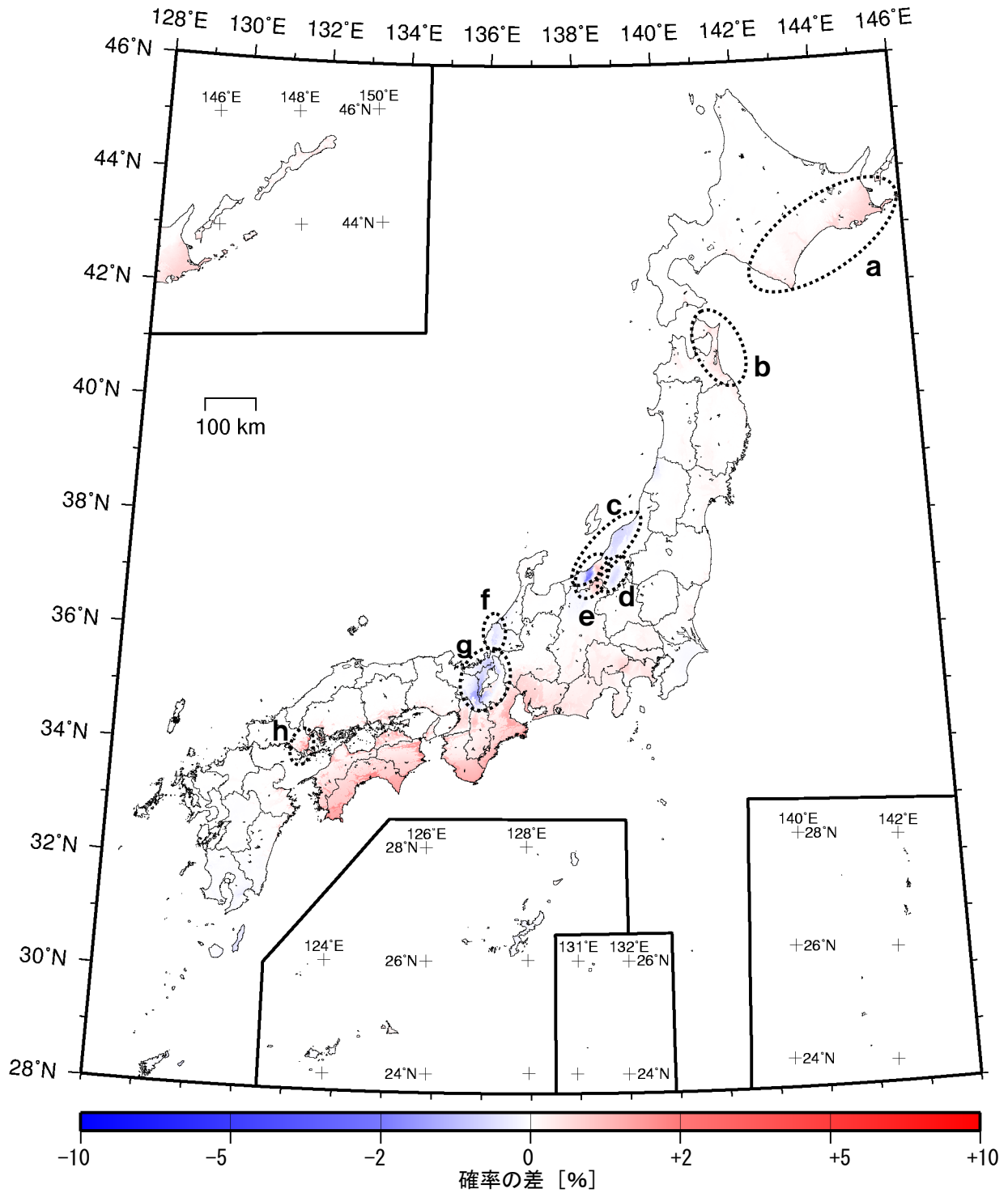
されたために想定している地震の規模が小さくなったことと、その地震発生確率が下降したことによるものです。

- ・ 山口県南東部（図中h）に見られる確率の上昇は、主に安芸灘断層群が主要活断層帯として評価されたことによるものです。

なお、確率論的地震動予測地図のうち、各地震カテゴリーの確率の分布を四分位表示した地図では、地図上の全評価メッシュの地震動の発生確率を大きなものから順に並べた上で、個数を四等分して濃淡により表示しましたが、それら四分位点に対応する確率の値（いずれも期間は今後30年間）は次の通りです。

**<参考> 各地震カテゴリーの確率の分布を四分位表示した地図の  
各四分位点に対応する確率の値  
(いずれも期間は今後30年間)**

	カテゴリーⅠ(平均ケース)			カテゴリーⅡ(平均ケース)		
	1/4位	2/4位	3/4位	1/4位	2/4位	3/4位
震度5弱	3.96%	17.7%	57.5%	1.48%	8.73%	30.2%
震度5強	0.309%	2.70%	26.0%	0.135%	1.25%	6.81%
震度6弱	0.0630%	0.909%	10.8%	0.00717%	0.105%	0.970%
震度6強	0.0130%	0.215%	1.30%	0.000159%	0.00630%	0.116%
	カテゴリーⅢ(平均ケース)			カテゴリーⅢ(最大ケース)		
	1/4位	2/4位	3/4位	1/4位	2/4位	3/4位
震度5弱	2.77%	5.60%	12.8%	3.61%	7.40%	16.81%
震度5強	0.668%	1.57%	4.21%	0.856%	2.21%	6.17%
震度6弱	0.0958%	0.308%	1.04%	0.120%	0.428%	1.66%
震度6強	0.00580%	0.0314%	0.157%	0.00674%	0.0450%	0.260%



赤色：今回の地図（2010年版）の確率が2009年版よりも上昇  
 青色：今回の地図（2010年版）の確率が2009年版よりも下降

＜参考＞ 確率論的地震動予測地図：2009年版からの変化  
 今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の差  
 （2010年版－2009年版；平均ケース・全地震）